

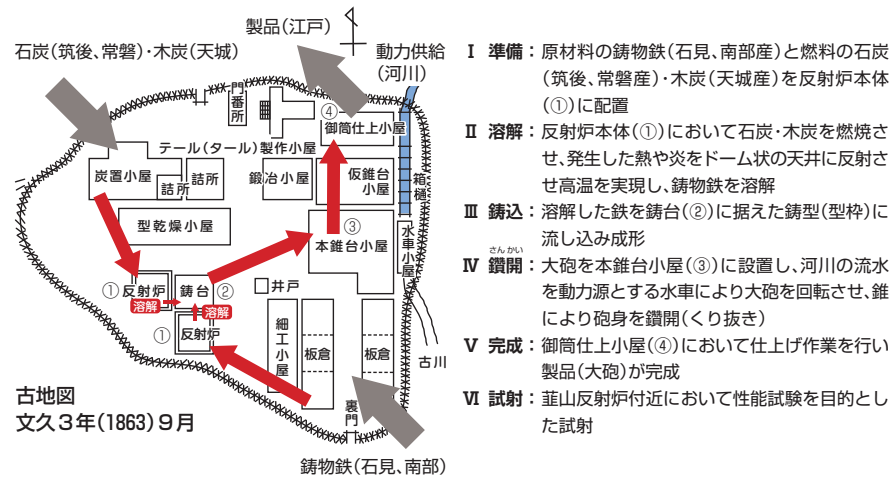
# 幕末期における近代製鉄技術導入への挑戦を物語る 葦山反射炉

Nirayama Reverberatory Furnaces

## 大砲製造工場としての産業システム

葦山反射炉は、現存する反射炉本体のみで完結していたのではなく、関連する様々な建物群や隣接する河川からなる大砲製造工場としての産業システムを形成していた。

## 大砲製造に係る産業システム模式図と想像復元CG図



葦山反射炉の世界遺産としての資産範囲は、操業当時に産業システムを形成していた反射炉本体、関連建物跡地(史跡指定地)、河川部分の3つの要素から構成される。



IVの工程を表す想像復元CG図



葦山反射炉想像復元CG図

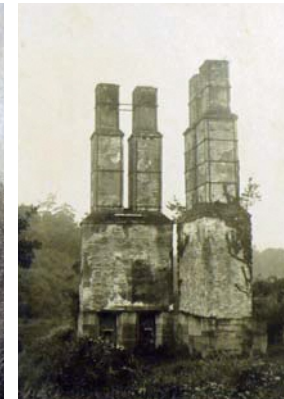
葦山反射炉は、稼働を終えたのち150年以上にわたり、地域住民の理解や協力の下、適切な補修・修理工事を重ねながら今日まで保存されてきた。

今後も、この歴史の変遷を十分理解・尊重した上で、さらなる調査・研究を通じて必要な保存の措置を講じ、貴重な資産を後世に継承していく。

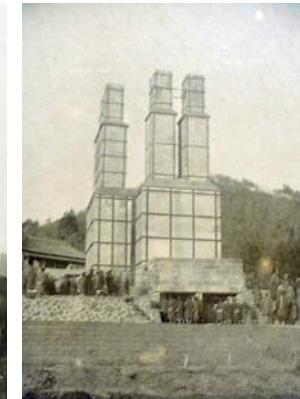
## 葦山反射炉の変遷



明治初期



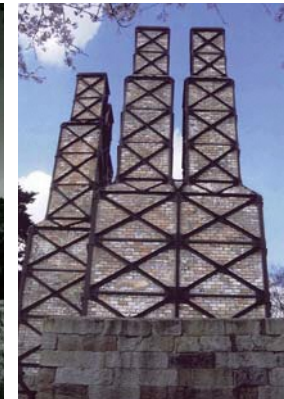
明治41年(1908) 補修前



明治41年(1908) 補修後



昭和32年(1957) 補修後



昭和63年(1988) 補修後

### これまでに行われた大規模な修理・補修工事

年代	工事内容
明治41年(1908)	・煉瓦補修 ・煙突部上中下層への鉄帯補強
昭和32年(1957)	・煙突外部への鉄骨トラス設置による補強 ・煙突内部への木枠ブロック設置による崩落防止措置 ・煙突天蓋(鉄板)設置
昭和60年(1985) 平成元年(1989)	・基礎、炉体、煙突内外部補強 ・鉄骨トラス差替(更新) ・煙突天蓋差替(銅板)

※明治初期、明治41年補修前及び明治41年補修後の写真は、公益財団法人江川文庫所蔵